

『身体はだれのものか—比較史でみる装いとケア』京都橘大学女性歴史文化研究所叢書



南 直人、北山 晴一、日比野 英子、田端 泰子 編

昭和堂（2018年3月30日発行）

A5版／278頁

¥4,000（税別）

<目次>（タイトルと執筆者）

はじめに

第Ⅰ部 身体表現と身体ケアの接点を求めて

第1章 消費社会の発展と近代的身体の見

—近代ヨーロッパ社会における身体ケアと身体表現（北山 晴一・立教大学名誉教授）

第2章 〈太った身体〉の是認

—十九世紀前半のフランス、ガストロノミーの時代（橋本 周子・滋賀県立大学人間文化学部助教）

第3章 新しい食と身体表現を求めて

—第二帝政期ドイツにおける生改革の動き（南 直人・文学部教授）

第4章 化粧の心理

—装いによる表現とケア（日比野 英子・健康科学部教授）

第Ⅱ部 美術、文学作品にあらわれる身体表現

第5章 五輪五体の身体観

—死と再生のメタファー（林 久美子・文学部教授）

第6章 中国古代絵画史籍から見える女性画家の事蹟

—その撰述の形式と女性像（王 衛明・文学部教授）

第7章 仏像の装いがあらわすもの

—興福寺東金堂維摩文殊像から考える（小林 裕子・文学部准教授）

第Ⅲ部 身体ケアをめぐる学際的視点

第8章 中世の湯屋と施浴

ー入浴にみる中世の身体観の一樣相（米澤 洋子・非常勤講師）

第9章 在宅看護活動の先駆者たち

ー十九世紀末イギリスにおける地区看護師（松浦 京子・文学部教授）

コラム 看護学における身体

ーふれる、うごかす、いやす（河原 宣子・看護学部教授）

コラム ウィメンズ・ヘルスと理学療法（横山 茂樹・健康科学部教授）

第10章 「きもの」の原型小袖の普及とその背景

ー中世武士と庶民の衣料を素材として（田端 泰子・本学名誉教授）

あとがき